

令和 6 年 7 月 1 日現在

機関番号：37103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K09931

研究課題名（和文）高齢者の歯科医療コミュニケーションに関する研究

研究課題名（英文）A Study of patient-dentist communication among older adults in Japan

研究代表者

濱崎 朋子（Hamasaki, Tomoko）

九州女子大学・家政学部・教授

研究者番号：60316156

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）： 評価した歯科医師の説明項目のなかで、他の治療との比較、治療期間および治療の予後において3割程度の患者が十分でないと感じていた。これらの項目では、歯科医師が女性、複数である場合、患者が説明が十分であると評価した割合が有意に高かった。また、多くのコミュニケーション因子において、歯科医師の性別、年齢および診療内容と有意な関連がみられた。多変量解析の結果、患者の通院と歯科医師の説明に対する患者評価には有意な関連がみられた。

高齢患者に対する歯科医師の治療に関する説明の量や質の改善が、ひいては患者満足度の向上や、定期的な歯科への通院を促進する可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、急速な高齢社会の進行に伴い、患者全体に占める高齢者の割合が増加している。しかし、歯科領域における年代別の医療者コミュニケーション問題に関する知見は殆ど得られていない。本研究結果から、歯科医師の説明が患者の予防的な通院に影響を与えていることが明らかとなった。そのため、歯科医師の歯科医師の治療に関する説明の量や質の改善を促すことは、高齢患者の満足度の向上や、定期的な歯科への通院を促進につながると考えられる。

研究成果の概要（英文）： About 30% of patients felt that explanations of “comparison with other treatment methods,” “treatment period,” and “treatment prognosis” were not sufficient. In these items, the percentage of respondents for whom the dentist's explanation was sufficient was significantly higher when the dentist was female or plural. Many good communication factors were significantly associated with the dentist being female, younger, and having a preventive practice. Multivariate analysis revealed a significant association between the sufficiency of the dentist's explanations and regularity of patients' dental visits.

Adequacy of explanations provided by dentists for older adults were significantly associated with the dentist factor. Improving the quantity and quality of the dentists' explanations of treatment may improve patient satisfaction and promote regular dental visits.

研究分野：社会歯科学

キーワード：歯科 医療コミュニケーション 説明

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、急速な高齢社会の進行に伴い、患者全体に占める高齢者の割合が増加し、医療現場における高齢者とのコミュニケーションが問題になりつつある。先行研究では高齢者の医療者コミュニケーションでは次のような特徴が報告されている。若年者と異なる医師—患者関係を示すこと (Levinson W, et al. J Gen Intern Med; 2005; 20:531-5)、近年、高齢者が求める情報量が増加していること (Paillaud E, et al. Age Ageing; 2007; 36:274-9)、患者の意思決定やインフォームド・コンセントに認知症の影響があること (Brendan G, et al. Emerg Med Clin N Am; 2009; 27:605-14)、高齢者の尊厳と権利やその代理人に関して問題があること (Paillaud E, et al. Age Ageing; 2007; 36:274-9) 等である。これらについて医学分野では議論が行われつつあるが、歯科領域においては、高齢患者-医療者コミュニケーションにおける以上の問題に関する知見は殆ど得られていない。

本研究では、高齢者の歯科医療におけるコミュニケーションに着目し、若年者との違い、治療満足度、意思決定および受診行動との関連、コミュニケーションの関連要因について検討し、「より良い高齢者との歯科医療コミュニケーションの要因とは何か」を明らかにする。

### 2. 研究の目的

高齢者の医療者コミュニケーション研究では、高齢者は若年者よりもコミュニケーションに消極的で、医師に決定をまかせるパターンリズムが多く見られることが報告されていた。しかし、近年では高齢患者でも多くの情報を求め、意思決定に係わる傾向がみられることが報告されている (Giampieri M, Minerva Anestesiol.; 2012; 78(2):236-42)。若年者との違いの原因の1つとして、受けた健康教育の違いがあると推測されているが、知見が確立していない (Levinson W, et al. J Gen Intern Med; 2005; 20:531-5)。本研究においては、高齢者コミュニケーションに関連すると考えられる要因を過不足無く設定し、詳細に分析する予定である。さらに、コミュニケーションに影響を与えると思われる高齢患者の認知度や日常生活動作といった因子についても検討する予定である。

### 3. 研究の方法

#### (1) 対象

本研究の対象者は、本研究の趣旨に賛同し、協力が得られた福岡県内の歯科医院における歯科医師および患者である。歯科医院 19 医院に、それぞれ 10 名の高齢患者への調査依頼を行った。その結果、患者 154 名から、アンケート用紙が回収された(回収率 81.1%)。3 歯科医院では回収率が 1 件、3 件、4 件と回収率が 40%未滿であり、歯科医院因子への影響を考慮して削除し、16 歯科医院の患者 146 名を分析の対象とした。

歯科医師の属性として、年齢、性別、診療内容等について調査した。患者の属性としては、年齢、性別、世帯員数、世帯収入、認知・生活機能評価(DASC-8)<sup>15)</sup>、現在の歯科医院を選んだ理由、歯科医院への通院は予防を目的とした定期的通院か、痛みや問題がある時のみの不定期か、服薬や口腔衛生および通院に関する習慣について質問を行った。

#### (2)方法

歯科医師と患者をペアとして、質問紙票調査を行った。調査期間は 2021 年 6 月から 2022 年 4 月である。調査については、濱寄が各歯科医院において、調査の目的や方法等について説明を行った。また、患者への説明内容および方法を歯科医師に伝えた。患者は、歯科医院以外の場所で回答を行うように指示した。

まず、歯科医師から患者への説明場面におけるそれぞれの主観的な患者の説明量を評価した。具体的に説明内容として、“病名”、“病気の状態や予後”、“検査方法や結果”、“治療方法や効果”、“治療の副作用・危険性”、“他の治療方法との比較”、“治療期間”、“予後の見通し”8 項目について評価した。

コミュニケーション因子として、患者へ歯科医師の行動に関する 5 つの質問を行った。具体的には、“親近感を覚える”、“よく話しかけてくれる”、“話をよく聞いてくれる”、“話に関心を示してくれる”、“診療時間が短い”、“何事も質問しやすい”である。

### (3)分析および統計手法

歯科医師の説明に対する患者の評価について、“十分、きわめて十分”と“説明なし、きわめて不十分、不十分、どちらでもない、該当せず、無回答”の2群に分類した。コミュニケーション因子については、“強く、ややそう思う”と“どちらともいえない、あまり、そう思わない”の2群に分類した。さらに、説明およびコミュニケーション因子と歯科医師や患者に関する因子との関連について $\chi^2$ 検定を行った。最後に、患者の歯科医院への通院態様を目的変数として、説明およびコミュニケーション因子、歯科医師、患者因子の影響を検証するため、説明評価、コミュニケーション態様、歯科医師、患者因子を説明変数とするロジスティクス回帰分析を行った。その際、歯科医師の説明が、“十分、きわめて十分”を1点、それ以外を0点として、説明内容8項目の合計点を集計し、説明変数とした。同様に、コミュニケーション因子についても、“強く、ややそう思う”を1点、それ以外を0点として、コミュニケーション因子6項目の合計点を集計し、説明変数とした(診療時間が短い逆転項目)。統計解析にはPASW Statistics for Mac ver. 25を用いた。

## 4. 研究成果

本研究では、歯科医療における歯科医師の説明に着目し、高齢患者を対象として、歯科医療臨床現場における歯科医師の説明と患者—歯科医師コミュニケーションについて明らかにすることを目的とした。本研究結果から、歯科医師の十分な説明は歯科医師の因子によって影響されること、患者のアウトカムである定期的歯科通院に歯科医師の十分な説明が有意に関連していることが明らかとなった。

今回、説明の内容については8項目について取り上げ、それぞれの内容について十分説明されたかどうかを評価した。まず、説明内容について検討する。本研究では、説明内容の中で、“他の治療方法との比較”、“治療期間”、“予後の見通し”の項目において、3割程度の患者が不十分であると回答しており、他の説明内容よりも多かった。一般的にもこれらの項目について、他の説明よりも十分に説明されていない可能性がある。

さらに、これらの項目では、女性歯科医師はよく説明していたが、男性歯科医師では説明していない者の割合が有意に多かった。本研究結果は性差が歯科医師の説明に影響している可能性を示唆している。わが国では、女性歯科医師の割合が増加しており、今後さらなる研究を行いたい。

本調査では、患者のアウトカムを定期的通院とし、歯科医師の説明およびコミュニケーション因子に着目した多変量解析を行った。その結果、歯科医師の説明は、バリアーと考えられる患者因子で調整しても、有意な関連がみられた。歯科医師の説明が患者の予防的な通院に影響を与えていることが明らかとなった。良好な患者—歯科医師コミュニケーションは定期的な歯科受診を促進する因子となり得る可能性が示唆された。

一方、コミュニケーション因子については、多変量解析では患者の定期的な通院と有意な関連はみられなかった。今回、これまで実施したコミュニケーション調査結果を参考として、“親近感”、“話をよく聞いてくれる”、“診療時間”等について項目を設定した。これらのコミュニケーション因子よりも、歯科医師の説明内容のほうが、患者のアウトカムにより関連がある可能性が示唆された。

高齢者の歯科受診を阻むその他の因子として、本結果から、定期歯科受診には、経済的因子が有意な阻害因子となっており、特に高齢者において経済的問題と医療受診については、継続的な定期歯科受診や患者の満足度向上のため考えるべき喫緊の問題であり、公的保険の支援等も含めて検討する必要がある。さらに、“歯科医院を近いから”という理由で選んだ患者のいくつかの説明やコミュニケーション評価が低い結果となった。身体的移動能力の低下、移動手段の不足、自動車の運転ができない等の理由から、不満足と感じつつ、患者が通院可能な近い歯科医院を受診している可能性も高い。このアクセスの問題は、定期的な受診を阻むバリアーになる可能性があり、なんらかの対策が必要である。

このように、高齢患者に対する歯科医師の十分な説明は、定期的な歯科への通院と有意に関連していた。歯科医師の説明の量や質の改善が、ひいては患者満足度を向上や、定期的な歯科への通院を促進する可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 濱崎朋子	4. 巻 57
2. 論文標題 歯科医療における歯科医師の説明に対する患者の満足度に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歯科医療管理学会雑誌	6. 最初と最後の頁 88-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 濱崎朋子、堀川真実、安細敏弘
2. 発表標題 高齢患者の定期的歯科受診に関連する歯科医師、患者およびコミュニケーション要因に関する研究
3. 学会等名 日本口腔衛生学会
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 濱崎朋子
2. 発表標題 歯科医療説明に対する患者の満足度に関する研究
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱崎朋子
2. 発表標題 歯科医療説明に対する高齢者の満足度に関する研究
3. 学会等名 第69回日本口腔衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱寄 朋子
2. 発表標題 高齢患者の歯科医師に対する印象とコミュニケーションに関する研究
3. 学会等名 第2回日本医療コミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱寄 朋子
2. 発表標題 高齢患者の定期的歯科受診に関する研究
3. 学会等名 第66回秋季日本歯周病学会学術大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	萩原 明人  (Hagihara Akihito)  (50291521)	九州大学・医学研究院・教授    (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------